

「リニューアル」がスローガン 日本精線の新中計

ステンレス鋼線製造の最大手、日本精線は、2021年3月期を最終年度とする3カ年中期経営計画「NSR20」を策定した。「日本精線リニューアル」のスローガンのもと、高機能独自製品の上方弾力確保・拡販と持続的成長のための生産基盤強化を推進し、最終年度に連結経常利益55億円、ROAおよびROA10%以上達成を目指す。新貝元社長は、新中計の概要や今後の事業展望などを聞いた。

—18年3月期の総括
および今期見通しから。

「前中計の重点施策である高機能・独自製品の拡販に加え、主に自動車関連需要の好調などで販売数量が増加。主力のステンレス鋼線部門は販売数量増に加えニッケル価格変動に伴う販売価格引き上げ効果などで増収、金属繊維部門もナスロンフィルターおよび超精密ガスフィルター(ナスクリン)の好調で増収となった結果、連結売上高は前期比17%増の374億円と過去最高となった。販売数量増に伴う工場操業度の改善などで



新貝 元社長

場での超精密ガスフィルター増産設備をそれぞれ今夏に垂直立上りさせる。また、枚方工場と海外拠点のタイ精線では、はねおよび極細線の生産能力を増強する。特にタイでは「線B種並みにまで強度

グループ全体見据え展開

業利益、経常利益、純利益のいずれも過去最高益を更新した。

「需要は全般的に堅調に推移しており、世界的な地政学的リスクの高まりなど世界経済の不確実性は増大しているものの、新中計は国内外の一段向上に向けた取り組みを強化し、売上高、利益面ともに最高数値の

計上更新を見込んでいく。

—第14次新中計がスタートした。

「前中計では枚方工場(大阪府枚方市)をスイ

4億円から460億円に、連結経常利益は40億円から55億円、連結ROAとも10%以上達成を目指す。

「基本方針のうち、高機能独自製品の上方弾力確保についての具体策は、

「東大阪工場(大阪府東大阪市)での耐熱ホルト用材増産設備、枚方工

生産基盤強化へ設投100億円

を高めた新鋼種「ハーキユリーEH」の量産体制を確立したほか、次世代型の高機能独自製品として、シングルマイクロン極細線や高機能フィルターの開発を推進。新市場として、既存顧客のシェアアップとともに、水素・電気自動車関連向けステンレス鋼線、半導体装置メーカーの世界トップ10向けシェア拡大を目指す。

「前中計は3カ年で計55億円の当初計画が、実績ベースでは計80億円を投資した。今中計はさらに上回る計100億円超の投資を計画している。先に述べた高機能独自製品の上方弾力確保・拡販と持続的成長のための生産基盤強化に向けた各施策を実行するもので、中計では初めての連結単位での事業戦略に基づく投資実施となる。主な投資比率は国内が9割、タイ精線が1割で、18年度は単年度ベースで最も投資金額が大きくなる計画で、年間約50億円規模となる見通しだ。」

—海外拠点の状況

「設立30周年を迎えたタイ精線は、自動車向けなど需要好調を背景に生産規模が年々拡大、18年2月期は月間平均571トンを過去最高を更新し、将来的には月間1000トンの生産規模を目指すとしており、海外市場に攻め込む一大供給基地としての位置づけをより強固なものにしていく。」

「中国の耐素龍精密機(常熟)は金属繊維フィルターの堅調で17年12月期は5年ぶりに黒字回復し、今後黒字継続を目指すほか、シャフト用クロム系ステンレス鋼線を生産している大同不銹鋼(大連)は、販売回復と人員削減効果で安定体質にある。」

「まずは、枚方工場において前中計から手掛けている製品倉庫集約と物流改善を継続している。加えて、品質および識別管理の自動化やシステム化の推進、多能工の育成やデジタルマネジメント(暗黙知の形式知化)の推進にも取り組むほか、超精密ガスフィルターの生産工程およびタイ精線の生産管理システムも刷新。人事・労務政策の見直しも着手する。」

(福岡 紀子)

※本記事は産業新聞社の承諾を得て掲載しており、著作権は産業新聞社に帰属します。